

事業シート（概要説明書）

事業名	科学技術イベント委託事業(産業展)	担当部名	経済文化部			
		担当課名	産業支援課			
事業開始年度	昭和58年度					
根拠法令等						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託又は指定管理（委託先：産業展実行委員会） <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
事業概要	目的 (何のために)	ものづくりへの挑戦、地域に根ざした産学官民連携による新技術・新商品の開発など、地元企業の特色と取り組みを広くPRし、住民への周知を図るとともに、地域の活性化を図るため。				
	対象 (誰・何を対象に)	産業展実行委員会 《委員構成》 商工会議所、津山圏域工業会、美作大学、国立津山工業高等専門学校、県立津山工業高等学校、他関係団体				
	事業内容 (手段、手法など)	《実施方法》 ・関係機関の代表者で構成する産業展実行委員会に対して、事業の企画・運営業務を委託する。 事業費としては、市からの委託料や関係団体の負担金などを財源としている。 ※前回(H16)事業費に対する市の委託料の財源には、国の補助制度である「電源立地地域対策交付金」を充当している(100%) 《事業内容》 ・地元企業の製品、技術、特産品などの展示による来場者へのPR ・開催趣旨に沿ったイベントや集客が見込まれるイベントの開催により、来場者を呼び込む。				
	事業の必要性	景気低迷による業績悪化や、昨今の若者の理工系離れなどにより、津山圏域の製造業全体が弱体化することが懸念されており、地元企業の持つ優れた技術や製品を市内外の企業や一般市民にPRすることで、地域経済の活性化を図るための重要な手段である。				
【支出】		H13決算	H16決算	H19決算	H23予算見込	
事業費（直接経費）		千円	33,943	23,632	中止	16,300
うち	嘱託職員・臨時職員等	従事者数	人			
		概算人件費	千円			
人件費	正規職員 (平均給与750万円換算)	従事者数	人	2	2	2
		概算人件費	千円	15,000	15,000	15,000
総事業費		千円	48,943	38,632		31,300
【収入】		H13決算	H16決算	H19決算	H23予算見込	
国・県からの補助金等		千円	4,000	3,000	中止	
使用料・手数料		千円				
地方債		千円				
その他()		千円	11,957	10,714		6,300
【収支】市の負担額（一般財源）		千円	32,986	24,918		25,000

事業シート（概要説明書）						
		内 容			金 額	
平成23年度見込 事業費内訳	イベント開催費			5,000	千円	
	会場費			5,500	千円	
	企画宣伝費			1,500	千円	
	事務費他			4,300	千円	
事業目的達成の ための活動指標	活動指標名	単位	H16年度実績	H19年度実績	H23年度見込	
	来場者	人	18,000		20,000	
	参加団体	団体	37		50	
単位当たりコスト	【平成23年度実施予定コスト】					
	事業費16,300,000円÷参加者延べ20,000人＝@815円/人 事業費16,300,000円÷参加団体50社＝326,000円－参加料40,000円＝@286,000円/団体					
目指す成果 (今後どのように したいか)	<p>事業内容を見直すことで、意欲のある企業の参加を促し、より多くの企業のビジネスチャンスの拡大の場となるように取り組む。</p> <p>また、企業のPRの場として有効な効果を生み出すために、できるだけ多くの一般市民の方に参加していただけるようなイベントを企画する必要がある。</p>					
事業の自己評価	事業目的の 達成状況	<p>○平成13年度の参加者は約27,000人(81ブース・参加企業：57社)</p> <p>○平成16年度の参加者は約18,000人(73ブース・参加企業：37社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気の低迷による出展企業の減少などにより、来場者は減少している。 ・前回来場者アンケートの結果によると、来場者の約7割の方から「来場して良かった」、出展企業の約6割の方から「出展した効果を感じられた」との回答をいただいております、事業目的をある程度達成できているものと考えます。 				
	今後の事業の 方向性 (課題・改善 計画等)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生向けのPRの充実を図ることにより、地元企業への有能な人材の確保と雇用促進を図っていく。 ・来場者の半数近くが、子供向けイベントや飲食ブースを目的に来場しているため、こうした来場者を出展ブースへ誘引する方法の検討が必要である。 ・お祭りのイベントから、環境問題など、企業と市民が連携して取り組むことができるような課題をテーマとした内容へと見直しを図る。 ・市の委託料の財源としていた「電源立地地域対策交付金」については、今後の見通しが不確定であるため、見直す必要がある。 				
比較参考値 (他自治体における 類似事業の例など)	<p>「真庭のモノづくり産業展」</p> <p>○主催：真庭市産業サポートセンター(真庭市、真庭商工会、JAまにわ、JAびほくにて構成)</p> <p>○平成22年9月17日～18日開催</p> <p>○参加企業数：38社(当初50社予定)</p> <p>○来場者：延べ3000人</p> <p>○概要：ブースによる製品・パネル展示がメイン、商談ブースの設置、講演会、電気自動車の試乗等</p> <p>○予算額：523万円→県補助(中山間)200万円、出展企業負担金50万円、真庭市産業サポートセンター273万円(うち約70%を真庭市負担)</p>					
特記事項 (事業の沿革等)	<p>昭和58年から3年毎に開催して、現在に至る。</p> <p>平成19年度については、全市的なイベントや経済情勢の悪化などの事情により、開催を中止した経緯がある。</p>					